



しらさぎ

求めて学ぶ 考えて行う 自ら鍛える

目黒区立第八中学校
学校だより NO.10
(通巻110号)
平成28年(2016)
7月8日(金)

《保護者会資料》

『子供を育てる魔法(ま・ほ・う)の言葉掛け』

校長 飯野 博史

あと10日余りで35日間の夏休みとなります。生徒たちには、充実した夏休みとなるよう指導していきます。今、各学級で前期前半の反省とともに、夏休みの目標や計画作りに取りかかっているところです。有意義な夏休みとなるよう、ご家庭でも助言をお願いいたします。学校では、サマースクール、三者面談、部活動、水泳教室(E組)、イングリッシュサマースクール、図書室開放などを計画しています。積極的に参加、活用するよう声掛けをお願いいたします。

保護者の方から「夏休みはだらけてしまって困る」という声をよく耳にします。夏休みに限ったことではありませんが、子供に『魔法の言葉』を掛けてみてはどうでしょうか。『魔法の言葉』とは「まかせる」「ほめる」「うけとめる」ということです。学校でも「生徒を育てる魔法の言葉掛けをしよう」と教職員に呼びかけています。

■まかせる

家族の一員としての役割を子供に与えていますか。風呂掃除、食器洗い、洗濯など役割を与え、まかせてみてはどうでしょうか。「まかせるより自分でやってしまった方が早い」と思いかも知れません。しかし、一つのことに取り組み、「やり遂げた」という成就感や達成感を味わわせることが大切です。それが自信となり、次の意欲につながっていきます。まかせて失敗することもあるかも知れません。「失敗」から学ぶことも大切です。

授業でも、先生が何から何まで教えるのではなく、ある部分は生徒にまかせ、調べさせ、解決させることが必要です。自己決定の場を設け、子供の主体性を育てていきましょう。

■ほめる

「風呂掃除、きれいだったね」「洗濯物、ありがとう」「ていねいに書けるね」……ほめられれば誰だってうれしくなります。注意することはあってもなかなかほめることは見つからない、と感じてしまうものです。どんな小さなことでも、いいところを探してほめてみてください。ほめられれば、自己存在感、自己有用感といった感情が高まります。

学校では、「Aくんが積極的に発言していましたよ」「Bさんが一生懸命に掃除してくれました」など、各担当者から担任に情報が集まるようにしています。「Bさん、一生懸命に掃除したんだってね。C先生がほめてたよ。えらいね。」などと声掛けをしてほめるようにしています。

■うけとめる

子供ですから問題を起こすこともあります。そんなときに一方的に怒るだけではなく、「なぜそうなってしまったのか」子供の気持ちを聞くことが大切です。やってしまった行為は許せなくても、気持ちに共感することはできます。思春期の子供には共感的な態度で接することが必要です。厳しい指導(父親の心)と優しい指導(母親の心)のバランスが大切ではないでしょうか。日頃から「何でも話せる」という雰囲気、安心感が大切です。

学校では、日頃からのコミュニケーションを大切にし、あらゆる場面で共感的な態度、教育相談的な態度で生徒と接するように努めています。

夏休みが始まります。『魔法の言葉掛け』をぜひ試してみてください。(裏面も参考にしてください)

◎ある中学校で生徒にアンケートをとったところ…

● 親から言われたくないひと言

「何で～しないの?」「～もうやった?」(これからやろうと思ったのに)
「あなたには言っても分からないわね」「うちの子じゃない」
「あなたなんて産まなきゃよかった」「あなたなんていない」「出ていけ」
「こんなこともできないの?」「うるさい」「バカ」「子どものくせに」
「邪魔なのよ」「役立たず」「どうせできないでしょ」「しっかりしてよ」
「勝手にしなさい」「それがあなたのダメなところよ」「信じられない」
「あの子と遊ぶな」「部活やめなさい」「男の子(女の子)のくせに」
「〇〇さんを見習いなさい」「なんで〇〇さんみたいにできないの?」

○ 本当は待っているひと言

「がんばったね」「すごいね」「ありがとう」「助かるわ」
「あなたならできるよ」「大丈夫だよ」「成長したね」「やりたいようにやりなさい」
「晩ご飯は何が食べたい?」「たのんだよ」
「あなたを産んでよかった」「あなたがいてよかった」

◎どんな答え方をしますか? (考えて記入してみてください)

- ① ● 「お母さん」→「なによ」、「うるさいわね」、「今忙しいのよ」
○ 「お母さん」→「
」
- ② ● 「おはよう」→「何時だと思っているの。早く準備しないと学校に遅れるわよ」
「おはよう」→「
」
- ③ ● 「今日は疲れたあ」→「若いくせになに言ってるのよ。お母さんの方こそ疲れているわよ」
○ 「今日は疲れたあ」→「
」
- ④ ● 「テスト、ダメだった…」→「だからふだんから勉強しなさいって言ってるでしょ」
○ 「テスト、ダメだった…」→「
」

◎子供の叱り方 ～褒めることも忘れず～

北海道の山中で、「しつけ」と称して小学校2年生の男の子が置き去りにされるとい
う出来事がありました。「ひどい親だ」と思いましたが、このお父さんも子育てに悩ん
で子供にどう対応したらよいのか分からなかったのではないかと思うようになりました
。新聞に子育てについての特集が組まれていたので引用します。

○しつけのポイント

- ・感情的に怒らない。カッとなったときは深呼吸する。一人になるなど、冷静になる時間を作る。
- ・脅す、殴るなどの暴力は、子供との間の愛情を壊すだけ。
- ・具体的な言動を叱る。「ダメな子だ」などと子供の人格を否定しない。
- ・兄弟姉妹やよその子供と比べて叱らない。
- ・叱るばかりでなく、褒めることも大切。楽しい時間を共有することで普段から信頼関係を築く。
- ・子供によって成長や発達のスピードはそれぞれ。大人の言うことを理解して行動できるようになるまで見守る余裕も大切。
- ・子育てやしつけについて、親も本を読んだり、保育のプロや地域の様々な年代の人たちと話したりして、学ぶ。

参考にしました：読売新聞（6月8日朝刊）

「思春期の子」が話したくなるお母さんの接し方

内田玲子著（PHP研究所）